

# Visual Study

ビジュアルスタディ

## 世界のウォーターフロント都市

ウォーターフロント開発とは、都市開発そのものである。  
水辺の背後に広がる都市空間と、水辺周りの親水空間とを、一体のものとして構想し、「水」を核とする都市圏を、蘇生あるいは創生させていくための、永きにわたる取り組みである。

### 監修 横内憲久+ウォーターフロント研究室

横内憲久 日本大学理工学部海洋建築工学科教授、共著書『ウォーターフロントの計画ノート』『ウォーターフロント開発の手法』他

ウォーターフロント研究室 横内憲久教授、岡田智秀助手を中心に、ウォーターフロントの景観デザイン論、開発史・都市運河史、環境政策論、PFI、沿岸域計画、沿岸域管理システム、制度・政策など幅広い取り組みを行う



### 水辺機能と都市機能の 高度な調和

#### ハーバーフロント（カナダ、トロント）

カナダ・オンタリオ州トロントの都心部に位置し、オンタリオ湖に面したこの地域は、19世紀初めから港湾都市として栄えたが、近年、産業機能の衰退によって荒廃をみせていた。1980年、官民両セクターの出資によるハーバーフロント社を事業主体として、個性的な複合都市へ大きく変貌させる7ヵ年計画がスタートした。埋め立て整備を進めて、土地面積を増やすと同時に、深い掘込型の港湾を活用した開発によって、個性的な水際線が形成されている。港湾地帯を、再びトロント市のにぎわいの中心地として再生し、市民の公共財として機能させるために、公共施設の充実、特に水辺への公共的なアクセスに配慮が払われている。

深い掘込型の港湾を活用して  
個性的な水際線を形成





ハレとケが交錯する景観、  
ぶらぶら歩きが楽しい刺激的な水辺

**インナーハーバー（米国、ボルティモア）**  
米メリーランド州ボルティモアは、18世紀初頭にチェサピーク湾に注ぐ川の奥深い入り江の最奥部から発展した都市である。今世紀に臨海工業地帯として栄える一方、古くからの埠頭や倉庫群、商業機能がさびれ果て、汚水が漂う有り様だったが、1960年代に30年計画が策定され、再開発への取り組みが続けられてきた。永久的な臨海公園を確保し、大規模な公共レクリエーション設備を整えるとともに、市民を引き付ける魅力的なイベントプログラムが組まれるなど、公共的なレジャー拠点としての機能が重視されている。商業地域、住宅地域、オフィスビル、大規模コンベンションセンター、ホテルを擁する多機能複合都市であり、年間2000万人の利用客でにぎわうまでに発展している。事業主体である非営利・非株式組織の「チャールズセンター・インナーハーバー管理会社」は、民間としての柔軟性を保ちつつ、財源であるボルティモア市の政策を受けて、公共事業のイニシアティブを発揮し、官・民・デベロッパーの間でのコーディネーターとしての役割を果たしている。



ゴミ清掃船

# Visual Study

## 世界のウォーターフロント都市

### ドックランズ(英国、ロンドン)

ロンドンシティ空港からロンドンブリッジに至るテムズ川北岸域一帯2150haのドックランズは、英国政府主導の大規模な公共開発プロジェクトとして、近年注目を集めている。英国では、衰退の一途を辿る歴史的産業地域の再生が、70年代に相当に深刻な政策課題となっていた。その対策の一環として1980年に新たに「地方行政・都市計画・土地法」が制定されたのを受けて、1981年にドックランズ開発公社が設立され、民活を導入するためのコーディネーション機能を担ってきた。

当初の計画案は、大ロンドン市議会と5つの地方行政区による「ドックランズ共同開発委員会」が1974年に策定した「ドックランズ戦略計画」で、公共住宅中心のものだった。しかし試行錯誤のなかで次第に国際業務機能、情報都市機能の要素が加わったものへ変貌し、当時のサッチャー政権の民活路線の後押しも受けて、壮大な国際金融都市構想へと発展してきた。

ドックランズを構成する各地区は、すでに公社が主導する総合計画の段階を終えて、地域的な成熟の段階に入っている。各地区は、近代的なオフィスやレストラン、業務、住居、アメニティなどの多彩な展開を見せ、魅力的な個性を放ち始めている。わずか20年余りの短期間にこれだけの集積を実現できた背景には、政府と民間のパワーを協調させ増幅させてきた、ドックランズ開発公社の独創的な公共開発への取り組みがある。21世紀への新たな開発・運営手法として、学ぶべき点が多い。

### ヨーロッパ最大級のウォーターフロント開発



## 自然との高度な共生

### フォールスクリーク南岸（カナダ、バンクーバー）

ブリティッシュコロンビア州バンクーバーのフォールスクリーク南岸は、衰退し荒廃した工業地帯だった。1970年、専門家からなるフォールスクリーク・スタディグループが結成され、74年にはこの豊かな入り江の周辺地域を、レクリエーション、商業施設、住宅団地を中心とした多目的型ウォーターフロントとして蘇らせる計画がスタートした。住宅団地は、入居者の所得層分布がバンクーバー市のそれと同じになるよう、混在居住（ソーシャルミックス）の工夫がなされている。

隣接する人工島のグランビル島には、文化イベントの拠点「フェスティバルマーケット」が立地し、フォールスクリークとバンクーバー市全体の交流促進を担う。高架下をうまく利用して、島への動線が演出されている。



豊かな入り江に市民のための憩いの空間を再生



グランビル島



ショッピング施設に設けられたディンギー用の船着き場



湿地帯に浮かぶように暮らす街

### フォスターシティ（米国、サンフランシスコ）

サンフランシスコ国際空港にほど近いフォスターシティは、農業用地として利用されていた地域で、その自然性を生かしつつ、水辺のアメニティの工夫をふんだんに取り入れた美しいウォーターフロント都市として再開発されている。

泥湿地帯という条件を積極的に生かして湖や水路を改良整備し、ショッピング施設にもディンギーのための船着き場が用意されるなど、水辺と共生する郊外型ニュータウンとなっている。一帯を流れる水路は、サンフランシスコ湾とは遮断されており、内陸の下水は海岸線から1.5km離れた海底へ排出するなど、環境保全のためのコントロールが図られている。

# Visual Study

## 世界のウォーターフロント都市

### 水際空間の巧みな演出

～目線、触感、水の気配～

#### ファニエルホール・マーケットプレイス（米国、ボストン）

マサチューセッツ州ボストンでは、ユニオンワフ、バッテリー波止場など、湾岸域に連なるウォーターフロントの大規模な再開発に取り組んできた。「100エーカー計画」とも呼ばれるこの再開発はボストン市をあげたプロジェクトで、1964年から2004年までの40年間は、BRA（ボストン再開発公社）が一括してコーディネート機能を担うという長期計画で進められている。

湾岸域から、その後背地まで含めた開発計画のなかでも、市民にとって象徴的なプロジェクトの1つが、ボストン市の歴史的な商業発展の中心地であるファニエルホール・マーケットプレイスの再開発である。ボストン市庁舎に隣接する市街中心部に位置し、かつて公設市場として利用されていた4棟のレンガ造りの歴史的建造物を保存再生し、レストランやショッピング施設を中心としたモダンな商業施設として生まれ変わった。

水際線から内陸に400m入った所に位置し、水は見えないものの、水際の気配、活気を持ち込む演出がそこここに施され、ウォーターフロントへ市民を誘うアプローチ的な機能を担っている。そのアーバン・リゾート風の雰囲気は、観光客はもちろん近隣のビジネスマンのランチタイムの憩いの場としても人

大都市にリゾート性を持ち込み、水辺へ楽しく誘う



高架下も水辺への重要なアクセス / 水辺との出会いを演出するアーチ





ヒューマンサイズの親水都市

リバーウォーク、リバーセンター（米国、サンアントニオ）

テキサス州サンアントニオの都心域に、U字型の分岐を成しつつ流れるサンアントニオ川流域では、洪水対策のための治水工事と同時に、親水性の高い水辺空間の開発が行われてきた。全長800mの運河沿いには、水面とほとんど変わらない高さの遊歩道やレストランなどが設けられ、居心地の良いアメニティ空間を形成している。水量を調整する水門が2ヵ所設けられ、運河沿いの諸施設を水害から守っている。

